

平成23年6月23日現在

機関番号：37301

研究種目：基盤研究C

研究期間：2008～2010

課題番号：20520719

研究課題名（和文）

日本の近代化に貢献した長崎国際墓地埋葬者の研究～英国公文書館の関連資料調査と分析

研究課題名（英文）

Research on People Interred in the International Cemeteries of Nagasaki who Contributed to the Modernization of Japan: Investigation and Analysis of Materials Preserved at the UK National Archives

研究代表者

Brian F. Burke-Gaffney

長崎総合科学大学・環境-建築学部・人間環境学科・教授

研究者番号：00289612

研究成果の概要（和文）： 研究成果は1）英国国立公文書館などで多くの資料を収穫したこと、2）外国人功労者の子孫から貴重な資料を入手したこと、3）得られた情報や資料を著書、論文、講義、講演、学会など様々な場で活用したことである。

研究成果の概要（英文）： The researchers were able to 1) harvest an enormous number of related historical documents from the National Archives of the UK, etc., 2) make contact with the descendants of contributors living both in Japan and overseas, and 3) make full use of the collected information in books, dissertations, university classes, and public lectures.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民族学

キーワード：国際墓地、外国人功労者、人間学、長崎外国人居留地、領事館アーカイブ、英字新聞

1. 研究開始当初の背景

長崎市には、大きく3箇所国際墓地が設けられており、中国人、オランダ人、ロシア人、イギリス人など20カ国、1500人を

超える人々が眠っている。その歴史は他県の外国人墓地に比べて遥かに古く、西洋人のものとして日本最古と思われる、出島オランダ商館長デュルコーブ（1778年没）の墓碑を始め多くの貴重な歴史遺産を含む。なお、

日本近世で活躍した外国人がここに永眠しているということが知られていたが、彼らに関する研究がほとんど進んでいなかった。研究代表者らによる「時の流れを越えて～長崎国際墓地に眠る人々」(長崎文献社、共著、1993年)は埋葬者に関する研究を前進させたが、領事館アーカイブや海外に保管されるその他の資料は未開発のままであった。研究を深め、知られざる郷土史を明らかにするためには、英国国立公文書館や米国国立公文書館などにおいて調査し、さらに子孫を捜して聞き取り調査および資料収集を行う必要があった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、長崎の国際墓地埋葬者に焦点をあて、日本の近代的産業および西洋医学に著しく貢献した外国人功労者の来歴と人物像をあきらかにすることである。外国人功労者の足跡調査およびその業績の再検討を行うことによって、日本の近代化の発展過程がきわめて鮮明なものとなる。なぜなら、外国人功労者がもたらした情報や技術は、日本の近代的造船業、炭鉱業、海運業、通信業および西洋医学の源となったからであり、その源こそ日本の近代化にたいする影響を明らかにするものだからである。この作業によって、いままで充分評価されてこなかった長崎外国人居留地にかんする歴史的・文化的研究をいっそう前進させることができる。

3. 研究の方法

2008年度は、英国・ロンドンにある国立公文書館に出向き、日本の近代化に貢献した長崎国際墓地埋葬者関連の資料の発掘・分析をおこなった。また、日本の近代的産業に大きく貢献したフレデリック・リンガーにも焦点をあて、その子孫とのインタビューを英国・ウィトビーほかで行った。

2009年度は、1) ワシントンD.C.の米国国立公文書館などに保存されている旧長崎米国領事館公文書および長崎に関連する占領期資料の調査、2) 国際墓地ならびに長崎外国人居留地ゆかりの人々の足跡調査および子孫の聞き取り調査、3) ロンドンにある国立公文書館の調査を行った。

2010年度は、ロンドンにある国立公文書館の調査を行った。そして、外国人功労者の足跡調査およびその業績の再検討を行うことによって、外国人功労者のもたらした情報や技術が、日本の近代的造船業、炭鉱業、海運業、通信業および西洋医学の発展に大きく

寄与していた過程を明らかにすることができた。以上の調査・研究は、今後の英字新聞、英国や米国領事館アーカイブ、写真や絵はがきといった関連資料のデータベース作成の促進に道を開くものといえる。

4. 研究成果

当初の計画以上に研究が進展した。研究成果は下記の3項目に大別できる。

① 英国および米国の国立公文書館また東京の国会図書館における発掘調査を通して大きな成果をあげた。数千枚におよぶ書類や写真の複写を始め、旧長崎居留地の歴史研究や国際墓地埋葬者の足跡調査を前進させる多くの資料を収穫した。予期せぬ発見もあった。太平洋戦争直後の資料を調査中、アメリカ軍が長崎への占領を開始する前に撮影した動画を見つけた。この発見は2009年1月5日付け「毎日新聞」全国版の一面に大きく紹介された。

② 研究代表者も分担者も本研究で得られた情報や資料をもって、著書、論文、講義、講演、学会など様々な場で活用している。その中で、研究代表者の単著「Nagasaki: The British Experience 1854-1945」(Global Oriental UK, 2009年発行、288頁)は本研究と直結して発表し、研究分野と日英の学术交流に寄与することができた。

③ 本研究が発掘しようとした外国人功労者の子孫数名に連絡が取れ、貴重な資料を入手した。その中には、ジョン・ヒル(三菱長崎造船所の技師)、ジョージ・マンズブリッジ(同)、ウィルソン・ウォーカー(郵便汽船三菱商会の監督船長)、アーガ・ジョーダン(大北電信会社長崎支局長)、ロバート・ボウイー(アメリカ人医師)などが含まれる。

なお、今回の研究で収集した膨大な史料は関連研究を今後推進する上で重要な意味を持つ。研究代表者が現在執筆中の単著「Holme, Ringer & Co.: The Rise and Fall of a British Enterprise in Japan, 1868-1940」(仮代)(Global Oriental UK, 2011年末発行予定)は本研究の成果に裏付けられ、旧長崎居留地に関する学術研究にさらなる前進が期待される。

今後、英字新聞、英国や米国領事館アーカイブなど、関連資料の調査、整理、データベース作成の促進を図る所存である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者)

[雑誌論文] (計5件)

① ブライアン・バークガフニ (単著)、「南山手 14 番館 (旧オルト住宅) 再考」、査読なし、長崎総合科学大学地域科学研究所紀要『地域論叢』24 号、2009 年 3 月、71～81 頁

② ブライアン・バークガフニ (単著)、「The Mogi Road in Old Photographs and Picture Postcards」、査読あり、『古写真研究』第 3 号、長崎大学附属図書館発行、2009 年 5 月、57～62 頁

③ ブライアン・バークガフニ (単著)、「The Nagasaki-Scotland Connection: An Overview」、査読なし、長崎総合科学大学地域科学研究所紀要『地域論叢』25 号、2010 年 3 月、41～54 頁

④ ブライアン・バークガフニ (単著)、「国際貿易港長崎の多国籍社会～明治 33 年に撮影された一枚の写真を参考に」、査読あり、『開港都市研究』第 5 号、神戸大学大学院人文学研究科海港都市研究センター、2010 年 3 月、119～132 頁

⑤ ブライアン・バークガフニ (単著)、「長崎の旧リンガー住宅と下関の紅葉館～歴史的関連性と今後の展望」、査読なし、『地域論叢』第 26 号、長崎総合科学大学地域科学研究所、41～51 頁

〔学会発表〕 (計 1 件)

① 国際ワークショップ「Discovering Histories of Foreign Communities in Japan: Research, Archives and Special Collections」(National Library of Australia and Australian National University 主催)における公開講演「Japan's Gateway to the West: The Nagasaki Foreign Settlement 1859-1941」、2008 年 12 月 2 日

〔図書〕 (計 2 件)

① Brian Burke-Gaffney (単著)、「Nagasaki: The British Experience, 1854-1945」、Global Oriental 社 [英国]、2009 年 9 月、288 頁

② ブライアン・バークガフニ (単著)、「グラバー園への招待」、長崎文献社、2010 年 12 月)、75 頁

(研究分担者)

〔雑誌論文〕 (計 2 件)

① 木村博 (単著)、「アレクサンダー・シーボルトと長崎——哲学的人間学の観点から——」査読なし、『地域論叢』第 25 号、長崎総合科学大学地域科学研究所、2010 年 3 月、35～39 頁

② 木村博 (単著)、「アレクサンダー・シーボルトの人間像」査読なし、『地域論叢』第 26 号、長崎総合科学大学地域科学研究所、2011 年 3 月、53～58 頁

〔その他〕

ホームページ <http://www.nfs.nias.ac.jp>
(米国ウィスコンシン大学 Lane R. Earns 教授と共同運営)

6. 研究組織

(1) 研究代表者 Brian F. Burke-Gaffney
(長崎総合科学大学環境・建築学部教授)
研究者番号：00289612

(2) 研究分担者 木村博
(長崎総合科学大学環境・建築学部教授)
研究者番号：20341555